

## 4 【分析2】教科の調査結果と学校質問紙の調査結果との関係

ここでは、学校を平均通過率の高いAグループと低いBグループに分け、グループごとの学校質問紙調査の回答状況と平均通過率の状況とを比較した。

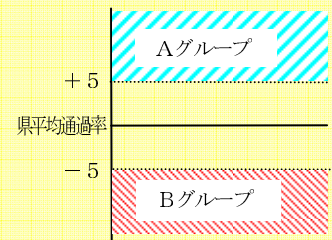
その中でも、AグループとBグループの回答状況において、「よくあてはまる」と回答した割合の差が5ポイント以上あるものを、教科の学習内容の定着に有効と考えられる指導内容、指導方法であると判断し、取り上げている。

学校質問紙のうち、教育活動全般に関する質問項目について分析し、結果を一覧表にして示すとともに、小・中学校の全教科に共通してAグループとBグループの差の大きかった項目については、グラフ化した。

### 【グループ化について】

Aグループ・・・平均通過率が県平均より+5ポイント以上の学校群

Bグループ・・・平均通過率が県平均より-5ポイント未満の学校群



### ◆ 小学校

	国語		算数	
	平均通過率	学校数	平均通過率	学校数
Aグループ	83.5%以上	137	82.8%以上	155
県平均通過率	78.5%		77.8%	
Bグループ	73.5%未満	98	72.8%未満	104

### ◆ 中学校

	国語		数学		英語	
	平均通過率	学校数	平均通過率	学校数	平均通過率	学校数
Aグループ	78.2%以上	76	79.7%以上	75	76.9%以上	92
県平均通過率	73.2%		74.7%		71.9%	
Bグループ	68.2%未満	50	69.7%未満	51	66.9%未満	48

### (1) 「教科の調査結果」と「学校質問紙調査（教育活動全般）結果」との関係

ここでは、教科全体の平均通過率を基に、A・Bの2グループについて、「よくあてはまる」と回答した学校の割合の差が5ポイント以上あった項目に★をつけている。(10ポイント以上の項目は★★)

★印が小学校2教科にまたがるものを      で囲み、中学校3教科にまたがるものを      で囲んでいる。★印が小・中学校全ての教科にまたがる項目については、網かけにしている。

**平均通過率の高い学校は、**

- 相手や目的に応じて表現の仕方を変える指導に重点を置いている。
- 既習内容の活用, 他の文章や資料との比較, 見通しや予想など, 考える方法を教える指導に重点を置いている。
- 結論先行型で, 根拠を挙げて自分の考えを述べたり書いたりする指導に重点を置いている。
- 思考力・表現力の育成に焦点を当てた研修を行っている。
- 予習や復習の仕方など, 家庭学習のやり方について指導をしている。
- 授業において, 児童生徒に何をどこまで達成するのかという具体的なめあてを示している。

**<教育活動全般>**

質問項目	小・国語	小・算数	中・国語	中・数学	中・英語
① 相手や目的に応じて表現の仕方を変える指導に重点を置いた。	★★	★★	★★	★★	★★
② 既習内容の活用, 他の文章や資料との比較, 見通しや予想など, 考える方法を教える指導に重点を置いた。	★★	★★	★★	★★	★★
③ 結論先行型で, 根拠を挙げて自分の考えを述べたり書いたりする指導に重点を置いた。	★★	★★	★★	★★	★★
④ 新聞の社説等を読んで, 論に賛成, 反対することやディベート等を行う指導に重点を置いた。	—	—			
⑤ 自分の根拠の妥当性を検討する, 自分の意見とは異なる他の意見を検討するなど考えを交流する指導に重点を置いた。	★★	★		★	★
⑥ ことばの教育について, 計画的に研修を行った。			★★	★★	★★
⑦ 思考力・表現力の育成に焦点を当てた研修を行った。	★	★★	★★	★★	★★
⑧ 「広島県教育資料」を活用した研修を行った。		★	★★	★★	★★
⑨ 「基礎・基本」定着状況調査報告書の指導改善事例を活用した授業研究を行った。		★	★★	★★	★★
⑩ 「基礎・基本」定着状況調査報告書の分析を活用して自校のデータを分析・考察する研修を行った。	★	★	★★	★★	
⑪ 各教科等のねらいを達成するために, 授業において, 言語活動を充実した。	★		★★	★★	★
⑫ 国語, 算数(数学)又は外国語活動(外国語)の指導について, 中学校(校区内の小学校)と連携した。	★★	★★		★	★
⑬ 校内で推薦図書のリストを作成し, 児童(生徒)に読書をすすめる取組を行った。	★★	★★			
⑭ 様々な本や資料(図, グラフ, 表を含む。)を基に自分の考えをもたせる指導をした。	★	★★		★★	★★
⑮ 家庭学習を計画的に行わせるような指導をした。	★	★	★★		★★
⑯ 予習や復習の仕方など, 家庭学習のやり方について指導をした。	★	★★	★	★	★★

**<教科の指導> (教科共通項目)**

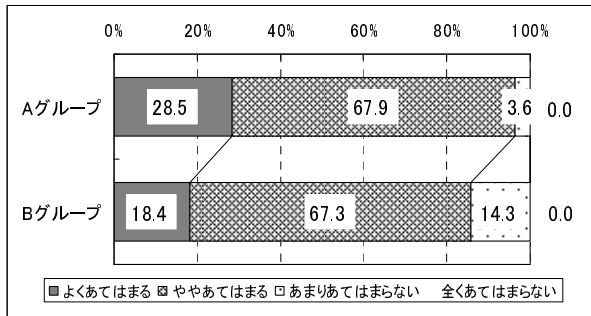
① 授業において, 問題解決的な学習を積極的に取り入れた。		★★	★★	★★	★
② 授業において, 児童(生徒)に何をどこまで達成するのかという具体的なめあてを示した。	★	★★	★★	★★	★★
③ 授業において, 児童(生徒)にめあてと対応した自己評価をさせた。		★★	★★	★★	★★

## (2) 小・中学校の全教科共通で指導の差が大きかった項目

ここでは、一覧表に掲げた質問項目のうち、小・中学校の全教科で「よくあてはまる」と回答した割合の差が10ポイント以上あったものをグラフ化した。

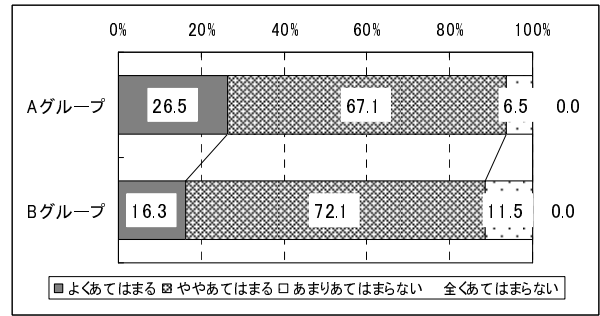
相手や目的に応じて表現の仕方を変える指導に重点を置いた。

小学校 国語



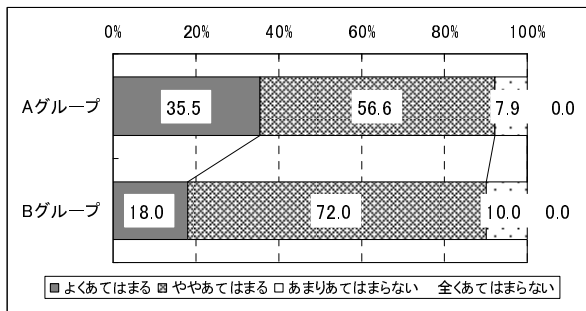
★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると、約10ポイントの差がある。

小学校 算数



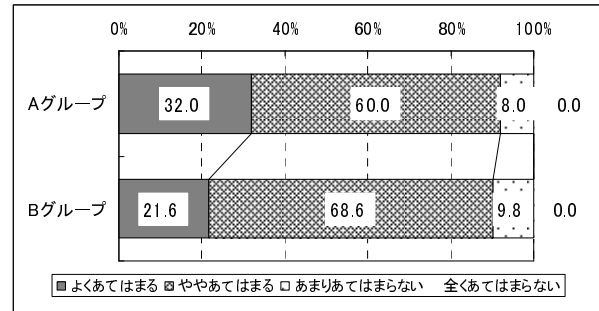
★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると、約10ポイントの差がある。

中学校 国語



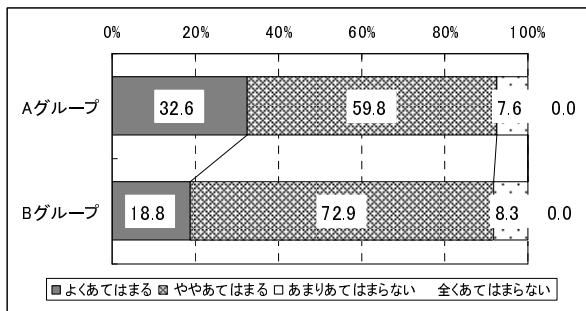
★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると、約18ポイントの差がある。

中学校 数学



★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると、約10ポイントの差がある。

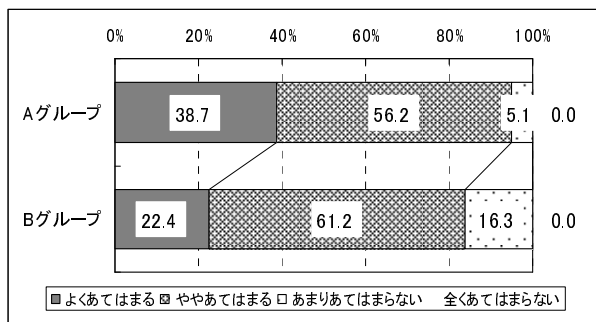
中学校 英語



★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると、約14ポイントの差がある。

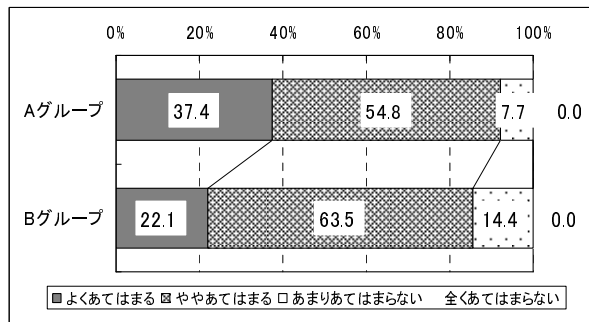
既習内容の活用，他の文章や資料との比較，見通しや予想など，考える方法を教える指導に重点を置いた。

### 小学校 国語



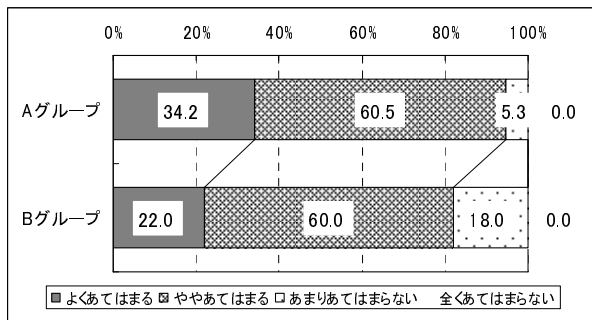
★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると，約16ポイントの差がある。

### 小学校 算数



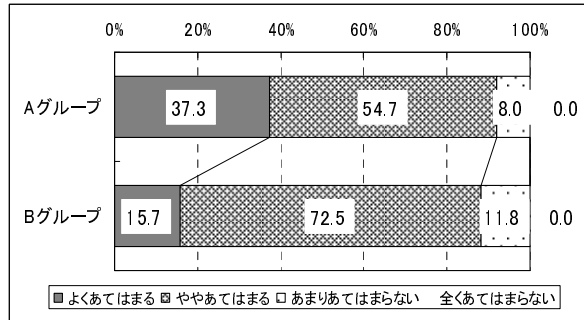
★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると，約15ポイントの差がある。

### 中学校 国語



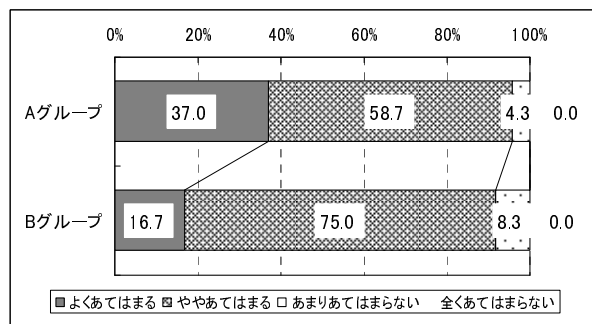
★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると，約12ポイントの差がある。

### 中学校 数学



★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると，約22ポイントの差がある。

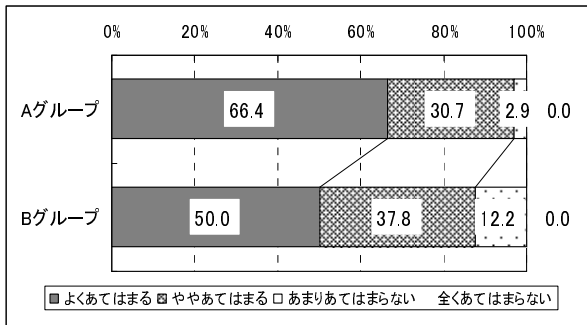
### 中学校 英語



★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると，約20ポイントの差がある。

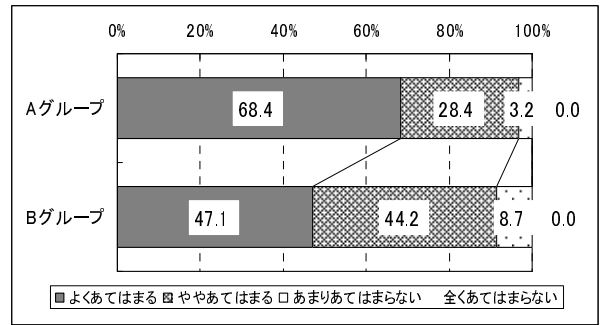
結論先行型で、根拠を挙げて自分の考えを述べたり書いたりする指導に重点を置いた。

小学校 国語



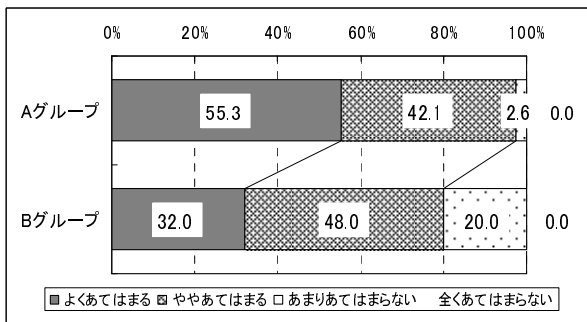
★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると、約16ポイントの差がある。

小学校 算数



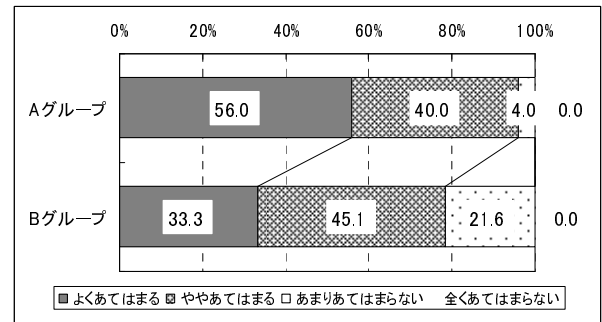
★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると、約21ポイントの差がある。

中学校 国語



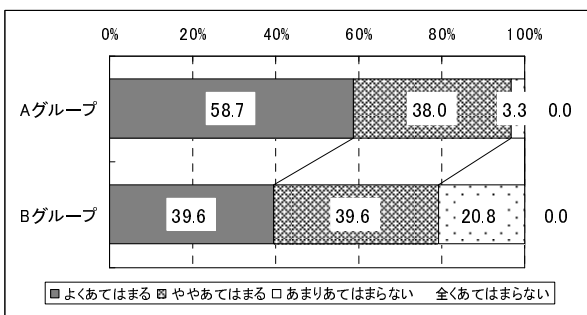
★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると、約23ポイントの差がある。

中学校 数学



★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると、約23ポイントの差がある。

中学校 英語



★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると、約19ポイントの差がある。